

鳥取縣公報

昭和十八年十一月九日
第千四百七十五號

火曜日

目次抄録

- 縣令
●第二次食糧増産緊急土地改良事業補助規程制定……………一頁
- 訓令
●鳥取縣旅費支給規程制定……………五頁
- 告示
●地方事務所處務規程中改正……………一〇頁
- 公有水面埋立竣工期限伸長許可……………一一頁
- 甘藷辨當ノ最高販賣價格指定……………一一頁

縣令

◆鳥取縣令第六十三號

第二次食糧増産緊急土地改良事業費補助規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月九日

鳥取縣知事 武 島 一 義

第一次食糧増産緊急土地改良事業費補助規程

第一條 昭和十八年八月十七日閣議決定第二次食糧増産對策要綱ニ基キ施行スル緊急土地改良及水田造成事業ノ完遂ヲ期スル爲本規程ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ市町村其ノ他知事ノ適當ト認ムル團體ノ行フ左ニ掲グル事業ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ

開田	間町	間町	間町
農道整備	間町	間町	間町
計	間町	間町	間町

「備考」 事業量欄ニハ暗渠排水、客土及開田ニアリテハ施行面積、小用排水ニアリテハ關係面積、農道整備ニアリテハ關係面積及延長ヲ記載スルコト

(第四號様式)

昭和 年度(自昭和 年 月 日) 收支精(決)算書
至昭和 年 月 日

科 目	前年度迄	本年度	計	附 記
	= 収入額	収入額		
縣費補助金				
一般會計ヨリ繰入金				
計				

科 目	支 出		補 助 金
	事業費	支 出	
總額	前年度	本年度	殘 額
出 額	支 出	支 出	
計			總額
			受領今回
			濟額請求
			殘 額
計			
農道整備			
開田			
小用排水			
客土			
暗渠排水			

鳥取縣訓令甲第二十二號

- 官 房 長
- 內 政 部 長
- 經 濟 部 長
- 警 察 部 長
- 各 麻 長
- 國民職業指導所長

鳥取縣旅費支給規程左ノ通定ム

昭和十八年十一月九日

鳥取縣知 武 島 一 義

鳥取縣旅費支給規程

第一條 官吏其ノ他ノ者公務ニ依リ旅行スルトキハ別ニ定メアルモノ、外本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 有給縣吏員及縣費ヨリ俸給、給料ヲ受クル囑託員雇員及傭人ニハ左ノ區分ニ依リ本令ニ依ルノ外内國旅費

支給ス

- 一 有給縣吏員ハ左ノ區分ニ依ル
 - 1 年俸二千四百圓以上ノ者ニハ奏任官五等以上ノ者ニ給スベキ額
 - 2 年俸二千四百圓未満ノ者ニハ奏任官六等以下ノ者ニ給スベキ額
 - 3 月俸五十五圓以上ノ者ニハ判任官ニ給スベキ額
 - 4 月俸五十五圓未満ノ者ニハ内務省所管旅費規則ニ依ル囑託員又ハ雇員ニシテ手當若ハ給料月額五十圓以上ノ者ニ給スベキ額
- 二 囑託員、雇員及傭人ハ内務省所管旅費規則ニ定ムル區分ニ依ル
- 三 前二條ニ定ムル者ノ縣内普通旅費ハ別表第一號表ニ依リ支給ス
- 四 赴任ノ場合ニ支給スベキ着後手當及移轉料ハ別表第二號表ニ依リ支給ス
- 五 諸調査會(調査會、委員會、審査會、協議會其ノ

他此等ニ準ズルモノヲ謂フノ職員ノ縣内出張ニ付支給スベキ旅費額ハ別表第三號表ニ依ル

第六條 地方事務所ニ勤務スル臨時獸醫タル家畜防疫委員其ノ擔當區域内ニ出張スルトキハ左ノ日額旅費ヲ支給ス

日額 一圓八十錢

第七條 蠶業取締支所在勤ノ技術員其ノ所轄區域内ヲ巡回スルトキハ別表第四號表ノ日額旅費ヲ支給ス

第八條 林産物検査支所又ハ駐在所在勤ノ産業技手補、林産物検査員及同囑託所轄區域内ヲ巡回スルトキハ左ノ月額旅費ヲ支給シ區域外ニ出張スルトキハ別表第五號表ノ日額旅費ヲ支給ス

月額 二圓

第九條 學校職員、軍事教練配屬將校生徒修學、實習及演習旅行ノ監督指導ノ爲出張スルトキハ別表第六號表ノ日額旅費ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ鐵道賃、軌道賃又船賃ヲ要スルトキハ旅費額ノ下級賃金ヲ支給ス

第十五條 日額又ハ月額旅費ヲ受クル者ト雖モ知事ニ於テ特ニ承認ヲ與ヘ出張セシメタル場合ハ第一號表ノ旅費額ヲ支給スルコトヲ得

月額旅費ヲ受クル者普通旅費ヲ受ケタルトキハ其ノ出張日數ニ應ジ日割ヲ以テ月額旅費ヲ減額ス

第十六條 豫算經理ノ都合ニ依リ本令ニ依ル旅費額ヲ支給シ難キ場合ニ於テハ知事又ハ廳長ニ於テ其ノ定額ヲ減ジ又ハ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第十七條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外旅費ノ支給ニ關シテハ内務省所管旅費規則ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ昭和十八年八月二十八日以降ノ旅行ニ付之ヲ適用ス大正九年六月訓令第三十九號國庫支辨ニ係ル内國旅費減額及支給規程昭和十年四月訓令第六號縣費支辨旅費規則及昭和十五年八月訓令第二十三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

別 表

第十條 試驗船、監視船又ハ漁船ニ乗組ミ出動シタルトキハ別表第七號表ノ旅費ヲ支給ス但シ五時間未満ノ縣内乗船出動並ニ臨時傭人船賃ニハ之ヲ支給セズ

第十一條 土木出張所、河川改良事務所、農業水利改良事業出張所在勤者又ハ地方滞在林業技術員其ノ所轄區域内ヲ巡回スルトキハ別表第八號表ノ月額旅費ヲ支給ス

前項ノ月額旅費ハ一箇月ノ巡回日數二十日以上ナルトキハ全額ヲ支給シ二十日未満ナキトキハ月額ニ巡回日數ヲ乘シ二十日ヲ以テ除シタル額ヲ支給ス

第十二條 鳥取市及米子市滞在農業技術員其ノ所轄區域内ヲ巡回スルトキハ別表第九號表ノ月額旅費ヲ支給ス

第十三條 京阪神地方滞在販賣幹旅事務ニ従事スル者其ノ所轄區域内ヲ巡回スルトキハ別表第十號表ノ旅費ヲ支給ス

第十四條 第八條及前二條ノ月額旅費ハ一箇月ノ巡回日數十五日以上ナルトキハ全額ヲ支給シ十五日未満ナルトキハ月額ニ巡回日數ヲ乘シ十五日ヲ以テ除シタル額ヲ支給ス

第一號表 普通旅費

備 考	區 分			車馬賃 一軒ニ付	日 當 一日ニ付	宿 泊 料 一夜ニ付
	勅 任 官	勅 任 官 房 長	勅 任 官 課 長 及 同 待 遇 者 等 以 上			
同 等 以 下	本廳課長及 地方事務所長	二十錢	二十錢	四圓五十錢	八圓五十錢	四圓五十錢
	其ノ他ノ者	二十錢	二十錢	四圓五十錢	八圓五十錢	四圓五十錢
判 任 官	本廳課長	十五錢	十五錢	三圓七十錢	七圓五十錢	三圓七十錢
	其ノ他ノ者	十五錢	十五錢	三圓七十錢	七圓五十錢	三圓七十錢
囑 託 員	甲	十五錢	十五錢	二圓二十錢	五圓三十錢	二圓二十錢
	乙	十二錢	十二錢	一圓九十錢	四圓六十錢	一圓九十錢
	丙	九錢	九錢	一圓六十錢	三圓九十錢	一圓六十錢
雇 員	甲	十五錢	十五錢	二圓二十錢	五圓三十錢	二圓二十錢
	乙	十二錢	十二錢	一圓九十錢	四圓六十錢	一圓九十錢
及 傭 人	甲	十五錢	十五錢	二圓二十錢	五圓三十錢	二圓二十錢
	乙	十二錢	十二錢	一圓九十錢	四圓六十錢	一圓九十錢

第八號表

土木出張所、河川改良事務所、農業水利改良事業出張所在勤者又ハ地方滞在農業技術員旅費額

區分	月額	
	奏任官	判任官
地方技術師	四十五圓	四十二圓
判任官	三十六圓	三十圓
土木工手、産業技手補及河川管理員ヲ命ゼラレタル縣書記、土木雇、耕地整理工手及林道現場監督員	二十五圓	

第九號表

鳥取市及米子市滞在農業技術員旅費額

滞在	地	月額
鳥取市、米子市		十八圓

第十號表

地方滞在販賣輪旋事務従事者旅費額

區分	月額	
	奏任官	判任官
	四十五圓	四十圓

告示

鳥取縣告示第五百六十一號

昭和十七年七月鳥取縣告示第四百十二號鳥取縣地方事務所處務規程中左ノ通改正シ昭和十八年十月二十二日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十八年十一月九日

鳥取縣知事 武 島 一 義

鳥取縣告示第五百六十二號

次線下

一 社寺ニ關スル事項

鳥取縣告示第五百六十二號

公有水面埋立竣功期限伸長ノ件左ノ通許可セリ

昭和十八年十一月九日

鳥取縣知事 武 島 一 義

- 一 埋立ノ場所 氣高郡湖山村字福井下灘地先公有水面六反四畝二十七步
- 一 竣功期限 昭和十八年九月三十日
- 一 竣功伸長期限 昭和二十年九月三十日迄
- 一 申請者 氣高郡大郷村大字福井 福 安 千 代 藏

鳥取縣告示第五百六十三號

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ本縣ニ於ケル驛構内等ニ立賣スル甘諸辨當ノ最高販賣價格左ノ通指定ス

昭和十八年十一月九日

鳥取縣知事 武 島 一 義

- 驛構内等ニ於テ立賣スル甘諸辨當ノ最高販賣價格
- 一 甘諸辨當 一人前 二十錢
- 二 規 格
 - 主食物 蒸 甘 露 一一〇匁以上
 - 副食物 內 容 量 一五匁以上
 - 魚介類、鳥獸肉類、鳥魚卵類、煉製品、揚物類、佃煮類、煮豆類、田麩類、麩類、海草類、漬物類、豆腐類、蒟蒻、味付味噌類、青果物類ノ内一種以上及香ノ物一類ヲ詰合セタルモノトス
- 三 主食物及副食物ノ原材料費ハ販賣價格ノ百分ノ四十

五以上トス

四 一ノ價格ハ鐵道大臣所定ノ包裝又ハ容器ニ註メタルモノノ價格トス

五 主食物タル蒸甘藷ハ燒甘藷ヲ以テ代フルコトヲ得ルモノトス

六 包裝又ハ容器ニハ品名、製造日時、販賣價格及製造人氏名又ハ商號並ニ所屬驛名ヲ表示スルモノトス

七 昭和十八年八月農林省告示第四百二十五號中(一)ノ辨當規格中主食物内容量七〇匁以上トアルヲ蒸甘藷又ハ燒甘藷九〇匁以上ニ代フルコトヲ得ルモノトス

鳥取縣公報

昭和十八年十一月十日

水曜日

縣令

臨時縣會招集ノ件

◆鳥取縣告示第五百六十四號

左記事件附議ノ爲昭和十八年十一月二十五日臨時縣會ヲ鳥取市ニ招集ス 會期ハ二日以内トス

昭和十八年十一月十日

鳥取縣知事 武 島 一 義

記

- 一 昭和十八年度鳥取縣歲入歲出追加更正豫算
- 一 震災對策費充當起債ニ關スル件
- 一 震災對策費繼續年期及支出方法ニ關スル件
- 一 豫算外義務負擔ニ關スル件

鳥取縣公報 每週 隔日發行 (休日ニ當ル) 昭和十八年十一月十日 (昭和四年四月十五日)